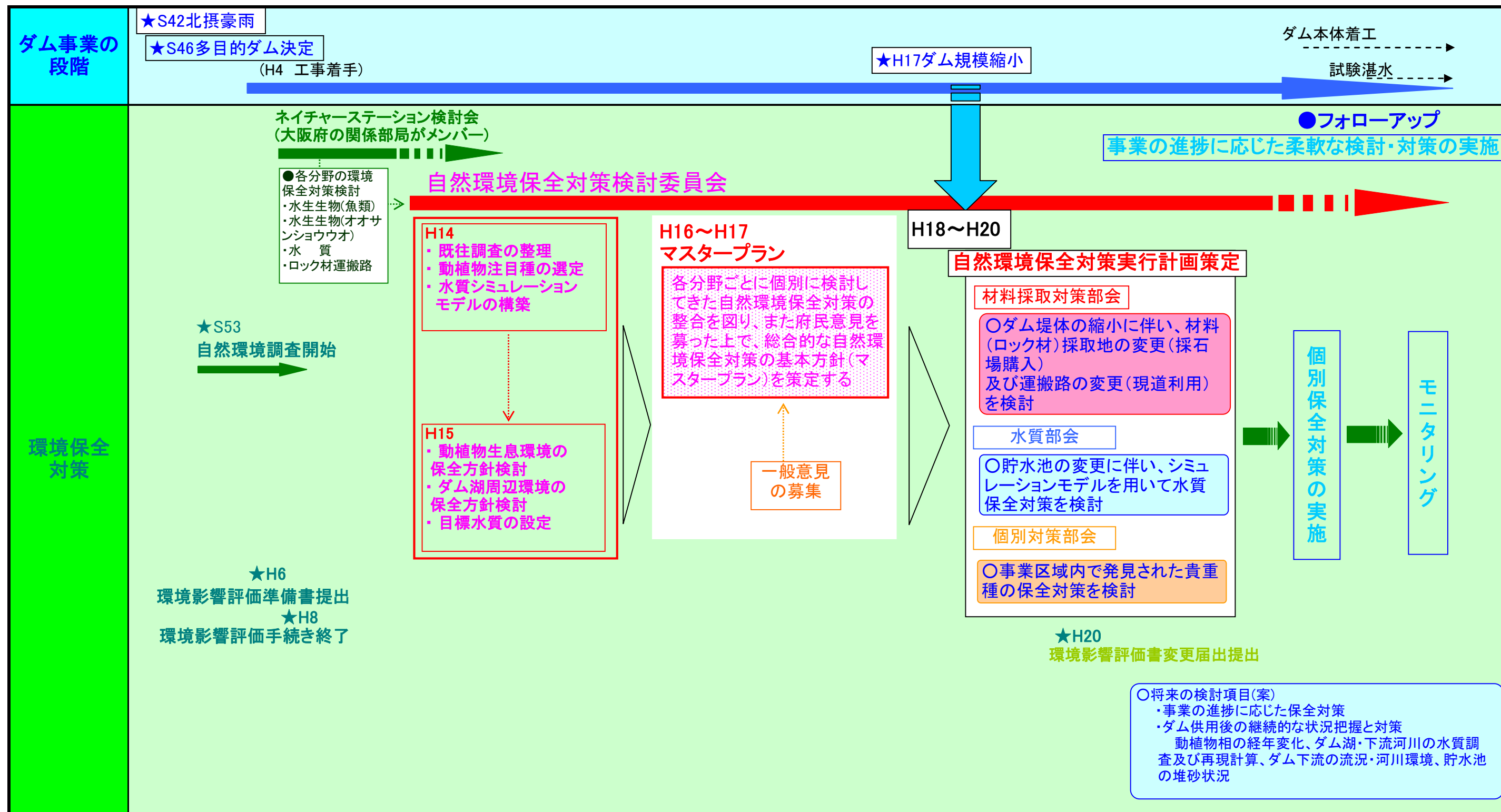


自然環境保全対策および 周辺整備の取り組み方針

安威川ダム自然環境保全対策

安威川ダム建設事業における自然環境保全対策については、平成14年5月に各専門分野の有識者で構成された「安威川ダム自然環境保全対策検討委員会」を設置し、同委員会からの提言を踏まえ、平成17年8月に『安威川ダム自然環境保全マスタープラン』を策定した。現在、このマスタープランに基づき総合的な自然環境保全対策に取り組んでいる。ここでは、自然環境保全マスタープランの概要、自然環境保全にかかる経過及び取り組みを確認し、引き続き保全対策に取り組むうえで問題がないことを確認する。

1) これまでの経過と今後のスケジュール



2) 自然環境保全にかかる取り組み状況

1. 安威川ダム自然環境保全対策実行計画（案）の策定

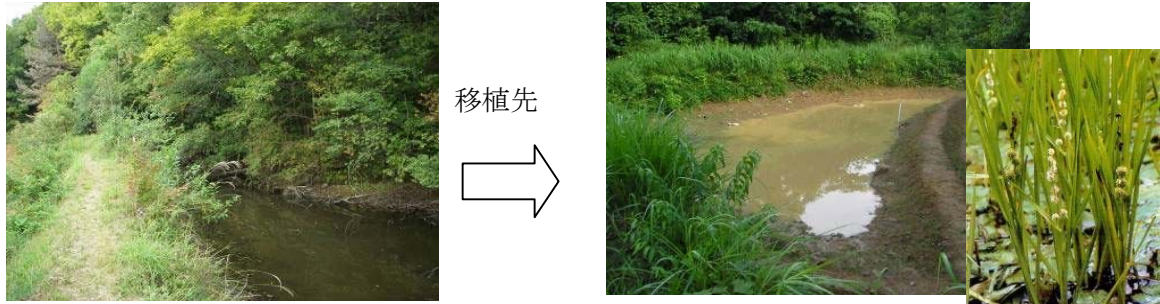
1. 目的	ダム事業者としてダム湖周辺の自然環境保全対策を、回避・低減・代償の観点から、可能な限り進めていくため、建設および管理に携わる一人一人が自然環境保全に取り組んでいくための指針として作成。
2. 策定	平成19年3月（適宜改訂）
3. 主な内容	①設計・工事にあたっての基本的な方針 ・法面緑化方法選定の方針、濁水処理方針 など ②材料採取における環境配慮事項 ③ダムの完成および管理運用にあたってのモニタリング計画 ④水質シミュレーションによるダム湖の水質保全対策 ⑤重要な動植物の個別対策 ・ビオトープ ・希少動植物の移植 など

2. 個別対策の取り組み（例）

■法面の植生回復
工事で発生した法面に対する現地種を用いた植生回復。



■ため池の移植（貴重種の移植、ビオトープ含む）
道路工事により消失するため池と湿地環境を工事の影響が及ばない場所へ移植。



■フクロウの巣箱設置・誘導
ダム湛水区域に存在するフクロウの営巣地に巣箱を設置し、区域外へ誘導。



■その他の取り組み

- オオタカの営巣調査・保全
- オオサンショウウオの緊急保護、人口巣穴による産卵・孵化 など

安威川ダム周辺整備

安威川ダム事業地およびその周辺の整備については、多くの府民に愛され、親しまれるものとしていくことが重要である。このため、大阪府と茨木市では、安威川ダム周辺の自然・社会条件特性や安威川ダム整備に関わる上位計画・関連計画の基本的な考え方を踏まえ、安威川ダム周辺における地域にふさわしい整備や保全を将来にわたり進めていくための方向性や、官民連携の進め方を示す基本方針（案）を策定した。

ここでは、安威川ダム周辺整備基本方針（案）の概要、経過および周辺整備に対する今後の取り組みを確認する。

1) 安威川ダム周辺整備基本方針〈概要版〉

〈安威川ダム周辺整備の基本方針（案）〉【概要版】

基本理念

『未来につなぐ美しい自然、創造と交流の湖畔の里』

“北摂の自然と人の織りなす美・自然と人の新たな調和”を目指して

安威川ダム周辺において、自然と人の営みの中で形成されてきた美しい景観や歴史・文化とダム湖により新たに生まれる地域景観は府民の財産です。これらの財産を活かし、府民のレクリエーション需要に応えるとともに、水源地域の振興、地域間交流の活性化につなげる必要があります。

安威川ダムの周辺整備においては、文化の創造と交流の場として、「自然環境」「レクリエーション」「地域振興と地域間交流」の3つの観点を融合・調和させることにより、北摂地域の新たな物語づくりを進めていきます。

■ 基本理念の3つの観点

1. 自然環境の観点

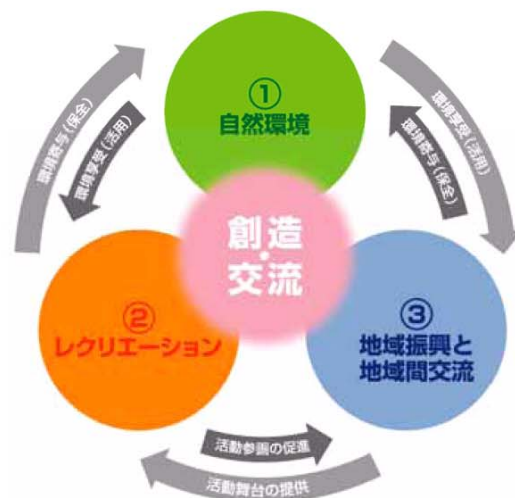
安威川ダム周辺は、都市近郊であるにも関わらず、貴重な自然や多様な環境が残されています。しかし、ダム事業がそれらの自然や環境に及ぼす影響は小さくありません。後世に良好な自然環境を引継ぐためにも、積極的な保全と再生が必要です。

2. レクリエーションの観点

安威川ダムの完成により生まれる水と緑の空間は、地域住民を含む府民の余暇活動に寄与していくことが望まれ、活動空間や活動の継続を促す環境づくりが必要となります。

3. 地域振興と地域間交流の観点

水源地域を含む安威川ダム周辺では、高齢化及び人口の減少が顕在化しています。周辺整備の効果は地域の活性化にも向けられるべきであり、地域振興や地域間交流の促進への寄与が必要とされます。



基本的な方針

方針1 溪流と湖面に映える周辺景観の保全と再生・創出に努めます

- ・ 地域に人々を集める最大の要素であるダムとダム湖や、これまで護り受け継がれてきた溪流と周辺の森林景観の整備・保全が求められます。
- ・ 美しいダム湖を維持するため、流入河川も含めた水質保持が必要です。
- ・ 植生枯死が避けられない湛水部の斜面地、関連工事による造成法面などの裸地の早期の植生再生、その他の周辺地について景観創出方策の実施が求められます。
- ・ 周囲の山林などの周辺景観の良好な保全と再生・創出のため、適正な森林管理を行うための支援策等の検討も必要となります。

方針2 ダム及びダム湖を拠点に地域資源を活かして北摂のシンボル空間を創出します

- ・ 都市生活圏に近接する豊かな自然と、そこで営まれてきた人と自然の関わりに併せて、新たに創出されるダム及びダム湖を地域資源として最大限に活かすことで、市街地と本地域との地域間交流を促進する場を提供し、地域振興を図ることが必要です。
- ・ 巨大なロックフィルダム、美しいダム湖、森林、溪流や田園環境の下で、景観を楽しみ、健康に遊び、また、この環境の保全・再生に自ら参加し、地域と触れあい、学習することができる、“地域の顔”となる活動空間が求められます。

方針3 周辺環境の保全と地域資源の有効活用を適正に調和させます

- ・ 周辺環境の保全の方針を明確にし、現状のままでも保全すべき箇所、再生すべき箇所を特定することが必要です。
- ・ 既存資源については、利用者の需要や地域特性を見据えながら、活用プログラムを検討・展開することが必要です。その際にも極力自然地形や現況植生を活かすような配慮が必要です。
- ・ 「安威川ダム自然環境保全マスタープラン：平成17年8月（大阪府）」に従い、周辺環境の保全と地域資源の有効活用を適正に調和させることが重要です。

方針4 周辺整備は公共と民間の協調・協力で進めます

- ・ 地域整備は公共と民間（地域住民、市民公益活動を行う団体・市民、民間企業など）との協調、協同によって進めていくことが不可欠です。
- ・ ダム完成後も継続的に必要となる地域マネジメントについても、公共と民間の協調、協同による企画・運営が図られることが必要です。

安威川ダム周辺整備イメージ(例)

安威川ダム周辺整備の基本理念

未来につなぐ美しい自然、創造と交流の湖畔の里

“北摂の自然と人の織りなす美・自然と人の新たな調和”を目指して

"安威川ダム周辺整備基本方針(案)に示す周辺整備のイメージ(例)は、次のとおりです。

A 溪谷自然探勝ゾーン

自然環境の保全に重点を置き、既存の自然歩道を利用した小規模な空間整備を目指します。



B 溪流ふれあい体験ゾーン

溪流環境の保全に重点を置き、溪流及びその周辺での余暇を楽しめる空間としての整備を目指します。



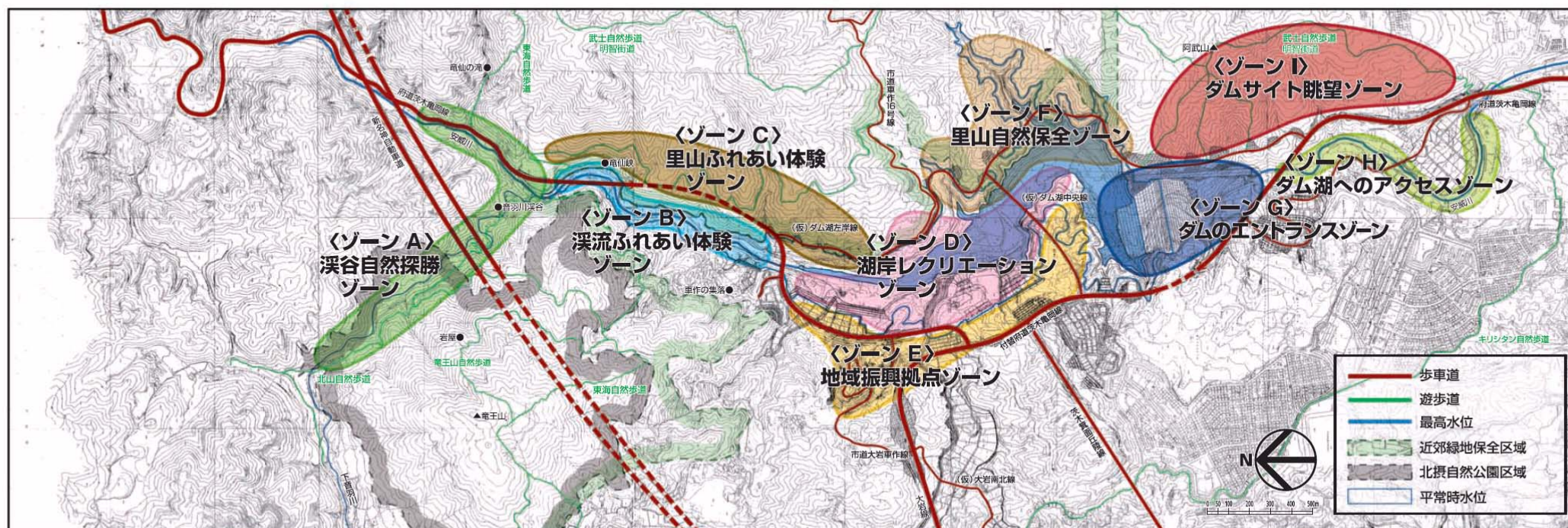
C 里山ふれあい体験ゾーン

山林や棚田・ため池空間の保全を基本とし、既設自然歩道を利用した整備を目指します。



D 湖岸レクリエーションゾーン

自然の再生や創出を図ると共に水生生物の生息環境の確保に配慮し、平地地を利用してダム湖周辺の拠点的ゾーンを目指します。



E 地域振興拠点ゾーン

自然の再生や創出に配慮し、ダム湖畔への集客を目的とした施設配置を検討します。また、地域振興に寄与する民間開発の誘導を目指します。



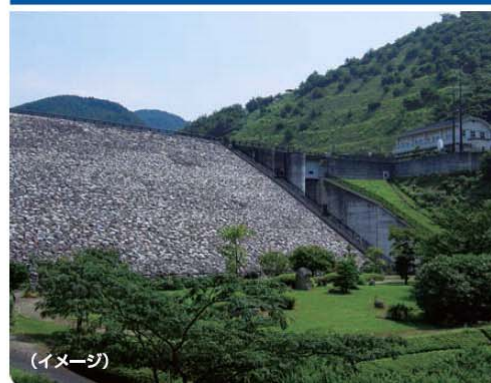
F 里山自然保全ゾーン

里山空間としての保全に配慮し、自然環境保全活動や従来の山林利用にとどめます。



G ダムのエントランスゾーン

自然の再生や創出に配慮し、レクリエーション空間としての利用やダムの施設見学に配慮した整備を目指します。



H ダム湖へのアクセスゾーン

ダム下流域の残土処分地の整備や河川改修と合わせ、自然環境の保全や創出、集落や下流河川とのネットワーク形成を目指します。



I ダムサイト眺望ゾーン

植林地としての山林環境の利用と保全に重点を置き、既存の歴史資源を保全しつつ休憩施設を兼ねた眺望箇所としての整備を目指します。



※整備イメージは例として示したものであり、今後の検討により内容が見直されることがあります。

2) 経緯

- 平成19年 7月 「安威川ダム周辺整備検討委員会」設立（計4回の委員会を開催）
- 平成20年11月 同委員会より「安威川ダム周辺整備のあり方（提言）」
- 平成21年 5月～ 「安威川ダム周辺整備基本方針（案）」に対する府民意見等の募集（パブリックコメント）の実施
- 平成21年 8月 同基本方針案のとりまとめ

3) 今後の取り組み方針

- ・基本方針（案）に基づき、魅力ある周辺整備の実現を目指す。
- ・周辺整備の具体化にあたっては、府民全体のために府・市・地域と連携を図りながら検討を進める。

- 「安威川ダム周辺整備基本方針（案）」の基本理念、基本方針は、ダム規模の変更によって影響されるものではない。
- 今後の周辺整備の具体的な取り組みにあたっては、ダム規模により湖面の面積に影響があり、その結果、自然環境の保全・再生や湖面周辺の整備計画、利活用計画に影響があるが、基本方針（案）に基づき実施計画の具体化を図ることで、多くの府民に愛され、親しまれる魅力的な周辺整備の実現は可能と考えられる。